

2003
12.01

Vol.60



社団法人日本建築家協会
The Japan Institute of Architects

NAGANO <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> -KEN CLUB

JIA 長野県クラブ

「そろそろ覚悟をもって振る舞わねば・・・。」

このタイトルは、JIA全国大会において大字根会長が報道機関に語った言葉です。“資格の問題にしても、設計者選定の問題にしても、あるいは我々の業務と報酬の問題にしても、社会に理解してもらおうと懸命に主張しています。しかし、一方で、それに逆行するような行動、振る舞いをする設計者もいます。言行不一致、本音と建て前。このような状況のままではとても社会・市民からの理解は得られません。JIA建築家資格制度の試行が始まろうとしている今、我々はこの部分に対し、そろそろ覚悟して取り組まねばならないのではないかと思います。”と言っておられます。

さて、過日長野県の発注に伴う土木コンサル45社が、公正取引委員会より談合行為によって排除勧告を受けたショッキングな報道を皆さん周知のことでしょう。もし、土木が建築になり、その中に我々のメンバーが名を連ねていたら・・・と想像すると、背筋が寒くなります。この談合を必要悪などとすいている時代ではない筈です。社会的「悪」であり、罪となり、入札制度の産物です。入札制度が無ければ談合も起こらないと思うのですが・・・。そして、このことは公共ばかりではないのです。自分は公共施設はやらないから、とばかりは言っておられません。住宅設計の場合にも、今程、社会の目が私達の仕事に厳しく向けられている時代は無かったと感じています。数年前には、プランが決まるごとに「後は細かいことは分かりませんので、『先生』におまかせします」というケースが無かった訳ではありません。しかし、今は、ライフスタイルの提案から構造・設備・仕上材料、更には建築社会全般の仕組みまで全ての「説明責任」が問われています。そんな時、私



会長 松下 重雄

達の書く一本の直線、一本の曲線がクライアントにとって何なのか？あなたは説明出来ますか？あるいは説明していますか？そんな必要ないだらないと思う方は、残念ながら近い将来、社会から淘汰の憂き目に合うかも知れません。こういった情報化社会のもたらす怖さはどんどん進行しそうです。医療ミスが社会問題化しているように、医師や弁護士だって例外ではありません。しかし、市民はだからといって入札や談合で病院や医者を選ぶでしょうか？第一、一番安い医者に、あなたは自分の命を預けますか？

会報46号で、21世紀は「抑制」の世紀では、と書きましたが、先ず、「自律」からスタートしなければなりません。そのためにこそCPD（継続職能研修）の必要性があり、当クラブの「あすなろ」の精神が重要ではないでしょうか？このような建築家像が、求められるUIA国際基準の「アーキテクト」ではないかと思います。そして、社会（公・民）に対してそのことを「登録」し、選定してもらうための評価基準が12月から始まった「登録建築家制度」の意義だろうと思います。当クラブでは幹事会において、全員が登録を目指しましょう。

紙面の都合で、めまぐるしい長野県及び全国の設計者選定問題について触れられませんので、その流れをお伝えするため別紙を同封致しますので、併せてご一読下さい。1月20日の「新年会」行事で心行くまで語らいましょう。ところで私は、今年度から“覚悟”して全ての入札参加は勿論、入札指名願いの提出を一切やめて歯を食いしばって民間依頼のみで頑張っています。どうぞご支援下さいますよう、お願いしてやみません。



清水国寿

建築家資格制度試行がいよいよこの12月より登録受付ということで11月11日支部実務委員長・大澤氏を迎えて、制度についての勉強会が開催された。

そもそもある制度の認定の基準や手続きについては、規則を具体的に定めればよいことで、決定されればそのマニュアルに従えばよいだけである。やはり一番の問題はその制度を定める根本的な意味（主旨）である。その制度の社会的必要性、普遍性などが明確になっていなければならぬと思う。

そしてこの建築家資格制度がこの国に必要であり、広く行き渡らなければならないということ、建築界の関係者であるから表面的には何とか理解できるよう思う。ただひとつ気になることは建築家資格制度を定めてほしいという一般世論が起こったのか、どうか。一般市民は建築家資格制度など名前も聞いたことがないであろう。また、それを切に願ってもない。私も新聞の全国紙に毎日目を通しているが、この制度が記事に採り上げられたことがあるのだろうか。そして社会的な話題となった事があるのだろうか。さらには、土会の専攻建築士制度（ゆくゆくは一つの制度とし、国際レベルの資格としたいとの事だが）があり、われわれ関係者でも内容の理解に混乱しているの



に、一般市民にとっては何がなにやら全くわからないのではないか。

いつも思うことであるが、建築界というのは内部ではかなり高度に知的ですばらしいものがあるのに、一般市民には全く理解されていない。また、理解されようとする具体的活動を見たことがない。

この制度をアピールするには、社会に対して責任をとるため建築界の内部でキチッとしておかねばということも理解できるが、もう少し一般社会の側からもこの制度の必要性が言われてもよいのではないか。設計料報酬や設計入札の問題も、もっと社会的な問題となってよいのだ。

TVでは、建築をまとめてデザインすれば、よい環境が得られますよという番組も出ては来たが、個性的デザインの話に終始して建築家の存在、建築設計の必要性の視点は欠如している。

思えば、この国は明治以来、富国強兵・殖産興業を急ぐあまり、芸術や伝統文化をかなぐり捨て、西欧を物質的・技術的に模倣することに終始してきた。日本の指導的立場の人間は西洋で生まれた知、ことに科学的、技術的な知を身に付けることを自己の最大の責務とし、さらには日本列島改造と技術や経済だけで國を動かし、美的感性を社会の大きな問題とすることは皆無であった。大学の建築学科が工学部にあることに誰も何の疑問も持たない。このような社会的背景から生まれた建築士法が技術的視点のみであることも無理からぬ話である。

我が国の設計・デザインなどのソフト業に関する多くの問題の根底には、この国民的・国家的美的感性の欠如の問題が横たわっている。そして西洋のようなアーキテクトの歴史がない日本において、技術と美学と倫理をバランスさせる建築家像を確立させるのは極めて困難なことに思える。

問題が大きさになりすぎたが、この建築家資格制度も一般市民の健康・安全と社会福祉のためという視点を忘れないに議論していきたいものと思います。

藤松幹雄

JIA会員の作品が、雑誌やまちで見かける機会が増えてきました、歴史的な価値のある建築や文化意識の高い建築が、まちの奥行きを増してゆくと思います。地方の建築家は、この環境づくりもしなくてはいけないと思っています。



自分にとっての建築家像を振り返ってみると、建築を芸術レベルで創る雲の上の建築家が思い浮かびます。その他に、社会に対しきちんとした考えを持ち、快適に暮らすことが出来るよう、提案をする建築家もいます。建築士という資格制度の中では、施主や業者から言われるままに、図面を書く人たちもいますが、明らかに建築家とは違うと思います。

この違いを一般市民や行政がどのように見極めるか、これが建築家資格制度になるのでしょうか。選ばれる人、選ぶ目、お互いのレベルを上げて行く事も、市民と共に考えて行く必要があると思います。たとえば、出来る事なら残したいと思うような歴史的建物も、建築家がんばってみても難しく、かといって一般市民は、その価値を上手く表現できない部分があります、互いに広い観点からまちを考え、社会に提案して行くことも必要で、結果地域のプライドを高め、市民意識のレベルを押し上げる事になると思います。

菊池弘之

今年の2月に入会し、およそ10ヶ月程たった期間の中で、多くの刺激を受けた事柄の中で、第一に、人との出会いでした。以前よりお名前は耳にしても、会う機会が無かった方々にお会い出来る様になり、最近作も引き渡し直前に内部まで見せて頂いた。また、JIA長野県クラブ発行の「愛と情熱の家づくり」を見て、「こんな凄い人も県内にいるんだ。」などと感動しています。

この数ヶ月に見学会・研修会等に参加し、過去数年間、自分の殻の中だけで設計してきた事に反省しながらも、コツコツとCPDを取得

しましたが、未だ24にすら及ばず、資格制度の年間単位は38になつたようですが、高いハードルと思っていたCPDが、走り高跳びのバーの高さに思えるのは、私の気のせいでしょうか？

自身の年間取得可能な数値は、疑問が残りますが、折角会員の方々、賛助会の皆様に知り合う事ができ、本音で語ろう会等様々な面でプラスになっております。自分自身に甘い私にとっては、この様な良い刺激を受ける環境に置こうと思い、最後尾より懸命に付いて行こうと頑張ります。

あすなろ建築展報告

あすなろ建築展・長野会場にて

今年で6回目を迎える「あすなろ建築展」は前回までの4会場から初めての試みとして、長野会場と松本会場で、行われることになりました。長野会場は11月11日から11月16日までの6日間、長野市南千歳町のアイビースクエアで開催されました。(この会場は9月に建築家・林雅子展が開催されたところです)

建築展内容については、CPD単位取得に認定された事もあり、いろいろ催しが追加されました。自分の作品を前に、パネルからでは、みてこない想いや苦労話を設計者自らの言葉で伺い、出席者からは、質問や意見が熱心に出されました。



あすなろ建築展・松本会場にて

松本でのあすなろ建築展は、井上デパート・アネックスホームズにおいて、11月26日から12月2日まで開催されました。

15:00～17:00の「建築家と語る 夢・まち・暮らし」では発表者が各自のパネルを前に10分間ずつのスピーチと質疑応答を行いました。

私はパネルでの作品展示も発表も初めてでしたので、各会員、賛助会員の方々を前に大変緊張しました。皆さんの作品に対して非常に真剣なまなざしで向かっていて質疑応答も興味深いものでした。一般のかたの参加が無かったのがとても残念でした。

17:00からのミニパーティも続いて建築について楽しく語らしながら過ごせたのではないかでしょうか。こうして始まった松本会場での展

竹花彰男

今までの建築展になかった盛り上がりを感じ、会員の交流の場がまた一つ加わったと思います。その後、オープニングパーティーが行われ、ワインを片手に皆さんの語らいで盛り上りました。翌日からは従来通り開催され、私の受付担当日には15人ぐらいの来場者が訪れ、中には作品について質問をされる方もあり、オープニングの勉強会での発表を参考に少し説明ができ、今年のあすなろ建築展の成果を感じました。

また、リピーターの市民もいて、継続することの大切さを感じます。



上條みゆき

示会ですが、最終的には70名ほどの方の署名を頂き、まあまあといったところだったそうです。

当番をやらせていただいているときにも何人かの方が、通りがかりに寄って熱心に見て回ってくださいましたし、ご自分の住まいについての質問をしてきた方もいらっしゃいました。

今回、事業委員の一人として事前準備の段階より参加させていただき一つのイベントの準備から撤収までかかわたることは大変勉強になりました。又、各会員の方々の展示の内容もスピーチも大変素晴らしいそれもまた勉強になりました。

今年の総括

新しい建築家像とは 建築家資格制度勉強会～本音で語る会を振り返って 会員委員長 甘利 享一

去る10月11日、JIA関東甲信越支部、大澤実務委員長を講師として、建築家資格制度の勉強会を開催し、それを受け12月5日には松本にて本音で語る会で「どう建築家像を描くか」をテーマに約40名で2時間に亘り議論した。時代の流れの中で建築設計を業務とする我々にも大きな変革を求められる時が来ている。この厳しい時代、段々淘汰されていく時代をどう生き抜くのか、これからの時代にふさわしい新しい建築家像とは、テーマが大きすぎて結論には至らないが、その中で出た意見を集約してみた。

我々が社会から必要とされ社会的に貢献できるか、市民の利益を保護して、市民のニーズに応えていくには幅広い能力が必要とされ、その能力を高めていくには日々の努力を積み重ねていかなければならぬ。

その為にはCPDの単位を取得していくのは最低条件であり一人の「人」としても倫理観を持ち、人格者でなければならない。常に発想力、創造性、美学、感性を高めて情熱を持ってクライアント、市民の立場に立って、使用者、発注者に親しまれる建築を創造していかなければならない。そして、一つ一つ創り上げた建築の中から社会的に信頼を得て、社会に貢献していく事が、これからの時代に必要とされ、この時代を生き抜いていく大きな使命になるのではなかろうか。

以上が私が強く感じた部分の概要ですが、松下会長よりJIA長野県クラブは全員登録を目指すというあいさつもあり、登録は全員お願いし、登録後、JIAでいう「建築家」維持が大変だと思いますが、この苦難の時を全員で乗り越え「建築家」であり続けようではありませんか。

日常の雑感

久保 隆夫

12月5日当クラブ恒例の一日前中“てんこ盛り”事業（特別委員会、技術交流会、本音で語ろう会、忘年会等々）が集約された日であった。

その事業も終盤を迎えたころ、事業の報告書を寄稿依頼され、忙しい時間の合間に重い々々筆を動かしている。（編集担当者のご苦労が身に染みて理解できる瞬間です・・・。）

関係のない話、12月上旬の日曜日、久しぶりにM美術館を訪ねた。『モネ展』の最中でもあり、館内は大変な混雑で人垣を縫いながら10数年ぶりに彼とその師弟たちの原筆の絵画に出会うことができたが、何故か以前観たときの感動はなく絵画不感症になったような気分になった。

なぜ？ それは建築的空間や照明などが原因ではなく“観るひと”によってできる環境のせいだった。以前初めて出会ったのは、パリ市内のオルセー美術館（駅舎を改修した美術館）。館内には人は疎ら、子供たちが写生する姿があり、ゆったりとした日常的な時間を楽しむ環境（文化？）があった。当日のM美術館は期間限定の企画展とはいえ、概して我が国では人が群を成して同じ行動をするのだろう。余暇というものはもっと日常のなかで時間を生み出し、自分流の楽しみを味わ

いたいものだと、自分自身も少し反省しながら早足で会場を去ることになった。

一方で思わず笑ってしまうもの、社会を風刺した深刻なもの、技術は勿論、極小の場に世の中の喜怒哀楽を凝縮表現した創作に“数奇屋”が重なる。同時にそのなかに品格のある“洒落”があり、社会を見つめた表現術は我々が目指す建築家像に通じるものを感じざるを得なかった。結局、思わず笑ってしまった一日だった。

今年の「本音・・・」のテーマは“求められる建築家像”であった。

いつも結論の出しにくい重いテーマである。折しも建築家資格確立の時期ではあるが、今後はより賛助会の皆さんと共に、議論できるテーマ設定も配慮すべきではないだろうか。そこから領域を越えた社会に通じる謙虚なメッセージを創出すべきではないだろうか。

広報委員会より

—冬の日— 西沢 利一

窪田空穂の「冬木原」に冬の日という歌がある。

その中に、

“さりげなく語る言葉のいささかに心つくして人しづかなり”

先日の忘年会、茜宿の夜も更けて、遠くの街の灯が透きとおり、ストーブを囲んでの会話であった。

冷え込んできたロビーで、賑やかな宴会の余韻を引きずっての話も、人の生き方を言葉の端々に感じた。

理由と意味の違いが・・・素敵な仲間がいてよかった。

こんな時間が持ててよかったです。

来年も頑張れる予感がした・・・冬の日だった。

（皆さん今年一年ありがとう。感謝、感謝！）

JIA長野県クラブの出版物ご案内

あなたの夢を建築家が実現します!!

信州で「家づくり」に情熱を傾ける

建築家を一挙紹介!!

「設計を建築家に頼みたいが、

敷居が高い・・・」とお考えのあなたに、

建築家一人一人の「仕事」を

写真と文章でご紹介。

家づくりの

最良のパートナーに出会える一冊です。



・既刊本「愛と情熱の家づくり」定価¥1,429 既刊本「建築家とつくる家」定価¥1,429
お問い合わせ・お求め

JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897

編集後記

長野・松本で開催された「第6回あすなろ建築展」。はじめての試みだった各出展者の発表は、大変参考になり刺激を受けた。

ただ、来場者の人数があまりにも少なかったことは残念で、来年はPRの方法を検討したらどうかと思った。

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

広報委員会 林 隆

編集人／西沢利一

発行所／JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内

発行人／松下重雄

TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303 E-mail:jia-naga@jeans.ocn.ne.jp